

令和2年度「支え合いを育む人づくり支援事業」事業実績

	申請高校・大学名	グループ名	教育・研究活動名	指導責任者名(教員名)	参加生徒・学生数	協働する市民活動団体名	主な活動内容及び実績	活動期間及び報告会	活動内容(分野別)					
									高齢者	子ども	障害者	防災	その他	
1	関西大学	近藤誠司研究室	災害時要配慮者に関する防災支援・交流プロジェクト	近藤 誠司	24人	尼崎市難病患者団体連絡協議会	難病患者・障害児者・高齢者などの要配慮者は防災対策の促進に苦慮しているため、学生が要配慮者との交流を通して実態調査を行い、防災・福祉・まちづくりについて能動的に学んだ。尼崎市民に対しての情報発信として、尼崎難病団体連絡協議会と合同で難病患者・障害児者の防災対策に関するシンポジウムの開催を予定していたがコロナ禍により令和3年度以降に延期とした。独自の情報発信としては、FMあまがさきの防災福祉番組「ぼうさいアイアイ」の製作を行い、通算100回目を突破した。	活動期間:R2.8~R3.2 報告会:R3年度に延期 尼崎市立幼稚園のYouTubeで配信					○	
2	兵庫県立 尼崎小田高等学校	看護医療「あまおだかんど」	地域コミュニティづくり「防災・減災 災害時要配慮者の支援を中心に共助の取り組みを」「在宅療養・看取りの地域啓発活動、健康・病気の予防活動」「子どもの居場所づくり-子どもに笑顔を」の3つの取り組み	福田 秀志	31人	コスモシティ尼崎自治会	災害時要配慮者の支援について、生徒が市民に対して啓発を行った。また、当事者にインタビューを行いオリジナル劇のシナリオ作成に生かした。また、生徒が地域の介護・医療にも関心を持ち、行政や医療・福祉の専門職から「高齢者の現状」「多職種連携の大切さ」等を学び地域住民に伝えた。さらに、子どもの居場所づくりのためにイベント等を開催した。	活動期間:R2.4~R3.3 報告会:R3.1.23	○	○			○	
3		国際探求「members of a society」	安心して暮らせる環境づくり (1)非常時における社会的弱者への支援(外国人移住者、子ども、高齢者、持病がある人など) (2)尼崎市大気環境を改善し、より暮らしやすいまちづくり	二森 正人	30人	尼崎市国際交流協会	「災害時の多言語対応」班は、地域住民が安心して暮らせるまちづくりを目標として非常時における外国人居住者が直面する問題の調査を行った。「尼崎の公害問題」班は、環境モデル都市である尼崎の環境への取組と啓発活動について学んだ。「脱炭素化社会」班は、化石燃料車と電気自動車と比較し、地域の自動車販売会社にアンケート調査を行うなどして現状を把握し、住民の健康問題を解決することにつながる脱炭素社会のあり方について発表した。	活動期間:R2.4~R3.3 報告会:R3.3高校内でパネル展示等						○
4	兵庫県立 阪神特別支援学校 分教室	WORK(喫茶サービス)	喫茶サービス活動を通じた地域活動への参加・交流	清水 照代	29人	・武庫第10連協 ・時友団地連合会	障害のある生徒が、喫茶サービス活動を通じて地域との交流を深め、接客技能と社会性の向上を図り、自己効用感、就労意欲等を高めることで地域福祉活動を担う人材を育成すること等を目的に、武庫第10社会福祉連絡協議会と協働して、時友団地の集会所で入居者を対象とした月2~4回程度の「ふれあい喫茶」を実施した。	活動期間:R2.9~R3.2 報告会:R3.2.5						○
5	園田学園女子大学	黒木ゼミ	地域で支え合う尼崎市の子育て支援について学ぶ	黒木 昌	5人	特定非営利活動法人やんちゃんこ	学生が大学から地域に目を向け、地域の実態に応じた子育て支援の在り方を学び、子どもの理解や保護者がおかれている状況を理解した。その上で学生の視点で課題を抽出し、向き合う手立てを考え「やんちゃんこ」での親子との関わりの中で実践した。また、「やんちゃんこ」主催の子育て領域講演会「発達特性の理解と関わりについて」のスタッフとして参加し、子育てに悩みを抱えている保護者の方・支援する立場にある方など、幅広い方々の助けになることについて理解した。	活動期間:R2.5~R2.12 報告会:R3.3大学内でパネル展示				○		
6	兵庫県立 尼崎西高等学校	地域貢献グループ	地域貢献活動	田中 悠子	30人	大庄元気むら	学生が異世代、特に高齢者とのかかわり方を理解し、大庄元気むら運営委員と共に地域の抱える課題や解決策について話し合い、「大庄元気むら」が地域住民にとって様々な世代が集まる居場所となるようイベントを企画し実施した。	活動期間:R2.6~R3.3 報告会:R3.12.18~12.20 活動の取組をオンラインにて生配信	○					
7	兵庫県立 尼崎北高等学校	芸術鑑賞部	地球・地域とつながる共生ライブ	吉田 英一	55人	うさぎ屋	生徒が様々な境遇の幼児、児童、高齢者の方々と音楽や工作・学習支援を通じて関わり、その実態を知り、生徒たちと地域住民との間で地域社会における共生の在り方を模索し実践した。また、コロナ禍で活動が制限される中「工作の作り方解説動画」「高齢者向け弾き語り動画」を作成し配信した。	活動期間:R2.6~R3.3 報告会:R3.3高校のYouTubeで配信	○	○				
8	兵庫県立 尼崎高等学校	尼崎学・JRC部	兵庫県立尼崎高等学校	田畑 北斗	30人	NPO法人スマイルひろば	生徒の課題解決能力の育成とコミュニケーション能力の向上や生徒が学校生活では体験できない活動を行い、出会うことのない人と出会ったりすることでの幅広い将来像をもつこと等を目的として、地域での子どもの居場所づくりを実施しているNPO法人スマイルカフェと協働し高校内居場所カフェを実施した。	活動期間:R2.7~R3.3 報告会:市のYouTubeで配信				○		
9	武庫川女子大学	教育学科吉井ゼミ	防災・減災意識を高めよう!~武庫女生による防災・減災を知る教材作り~	吉井 美奈子	8人	モコモコ倶楽部	コロナ禍で活動が制限される中、学生同士遠隔で相談を重ね、尼崎市の子どもたちが喜んで遊びながら学ぶことができる防災スコロク制作を行い、実際に子どもたちに使用してもらうイベントを開催した。防災スコロク以外にも「防災ポシット」の作成を検討しイベントの中で実施した。学生は、教材作りを通して尼崎市の地域について知り、イベントを通して子どもたちの関わり方に関心を寄せることができた。	活動期間:R2.8~R3.3 報告会(オンライン):R3.2.26				○		○
10	関西学院大学	国内ボランティアサークルつなぐ(三田キャンパス)	子ども食堂	村瀬 義史	16人	子ども食堂晴れるや	学生が貧困問題や子どもの孤立を解消するために、子どもたちに学習の場づくりや夕食を提供する「晴れるや」と協働し、学習支援のサポートや晴れるやのスタッフ及び子どもたちと一緒に夕食作りを行い、子どもたちと直接関わることで置かれている状況や抱えている問題を知り、考える機会とした。また、子どもたちに普段とは違う経験をしてもらうための課外体験なども取り入れ交流を深めた。	活動期間:R2.10~R3.3 報告会:R3.3活動先でパネル展示				○		
11		SL-B(子ども食堂)	サービスラーニングB(こども食堂からみる孤食と貧困問題)	上原 昭三	21人	・NPO法人スマイルひろば	将来教育職や福祉職に就くことを目指す学生が子ども食堂に通う子どもとのかかわりを通して、地域における子ども食堂の目的や意義、設立の背景、子どもたちの実態等について体験的に考える機会を持った。また、コロナ禍における子どもの状況を知り、自分たちができることや3蜜を避けた状態での関わりも考え、提案した。	活動期間:R2.4~R2.12 報告会R3.1大学内でパネル展示				○		
12		児童文化研究会	絵本を通して防災理解を広めるプロジェクト	椋田 善之	18人	紙芝居サークルどんぐりの会 読み聞かせグループハートフリー	将来保育士や小学校の教諭を目指す学生が、子どもたちの命を守る上で必要な防災の知識を創作絵本を通じて地域の子どもたちに伝える予定であったが、コロナ禍により課外活動を行うことができなかつたため、コロナ禍でも子どもたちが楽しむことができる動画を作成、サイトイベントにて公開した。	活動期間:R2.10~R3.3 報告会:サイトイベントにて動画配信				○		○
13	関西国際大学	福祉学専攻インターシップ	コミュニティインターシップ-商店街からみる持続可能なコミュニティの検討-	尾崎 慶太	26人	企業組合はんしんワーカーズコープ 三和本通商店街振興組合	学生がソーシャルワークの基礎である住民主体の観点や人権感覚を養うことを目的として、三和商店街の各店舗においてコミュニティインターシップと称して実際の店舗に業務補助に入り、店主や店員が抱く創業の歴史、商店街への思い、展望などを傾聴した。また、これらの活動を補完するものとして各店舗へインタビューを実施することで、店舗を利用する地域住民とも関わる機会を得た。コロナ禍においても、感染対策を進めながら、地域と接点を持つことで、商店街の「過去」「現在」「未来」に触れ、持続可能なまちづくりに学生がどのように寄与できるか考える機会を持った。	活動期間:R2.11~R3.2 報告会:報告用レポートを作成し協働先に提出						○
14		SL-B「いのち」を考える~阪神・淡路大震災の記憶を通して~	「いのち」を考える~阪神・淡路大震災の記憶を通して~	横山 雅彦	24人	社会福祉法人阪神共同福祉会	阪神・淡路大震災を知らない学生が「生と死」「いのち」の問題について、震災復興住宅入居者である被災者から直接被災体験を聞き交流を行った。この住宅は「コレクティブハウジング」として整備された住宅であるが高齢の住民間同士の交流が難しくなっており、震災を直接知らない学生が入居者から直接被災体験を聞くことで住宅の活性化を検討した。また、3月には一部の学生がオンラインで参加するという形を取った、震災復興住宅入居者及び周辺の住民を対象とした交流会を開催した。	活動期間:R2.11~R3.3 報告会:R3.3.26	○					○
15		キッズレポリューション	子どもが主役の地域を創る キッズレポリューション	大平 誠也	21人	小田のマナビヤ実行委員会	子育て世代の保護者に対し、親の孤立感や子育てに係る負担感の軽減を図り、安心して子育てができる環境を提供するために各関係団体と連携し、地域全体で子育て世代を応援することを目指した。具体としてコロナ禍の状況を踏まえ、手遊びの動画を作成し配信を行った。また、地域の中で実施される子ども向けイベントでは、運営団体からニーズを伺いニーズに沿った形で参画や会場装飾を行い普段学んでいる知識や技能を地域のイベントに参画することで社会的有用感を感じることができた。	活動期間:R2.11~R3.3 報告会:協働先及びイベントの運営団体と意見交流会				○		
	10校	15グループ			368人	18団体			4	9	0	5	3	